



地域学校協働 Letter

Ⅰ 地域と学校が手を取り合う「協働」のかたち

地域と学校が一緒になって活動する「地域学校協働活動」。その“協働”とは、ただ一緒に何かをするだけではありません。筑波大学の丹間教授は、「異なる立場にある者どうしが、互いの立場や特性を分かり合い、そのうえで学び合い、力を出し合うことによって、単独ではなしえない成果が生まれる」と語っています。まず大切なのは、「お互いを分かり合うこと」。地域には地域の知恵や経験があり、学校には子どもたちの成長を支える教育の力があります。それぞれの特性を話し合い、理解し合うことで、地域を支える活動が生まれるかもしれません。地域と学校が手を取り合い、子どもたちの未来のために協力し合える関係を築いていきましょう。

Ⅱ 「水海小未来プロジェクト」活動紹介！

夏休み学習会

8月6日から8日までの3日間、水海小未来プロジェクト主催による夏の学習会が行われました。今年で2年目となるこの取り組みに、希望する児童が参加。習字や絵画など、家庭では取り組みにくい宿題を地域のボランティアの皆さんが優しくサポートしました。

最終日には銅板作りの体験もあり、学習だけでなく、ものづくりの楽しさにも触れることができました。子どもたちの笑顔があふれる、充実した3日間となりました。



地域学校協働活動推進員ボランティアチーム



裁縫指導の様子



児童作品

令和7年いばらきものづくり教育フェア制作補助

夏休み中に、6年生が茨城県教育研究会主催の「令和7年いばらきものづくり教育フェア」に出品する作品制作に取り組みました。

学校運営協議会委員の方が、高度な裁縫技術を指導し、教員だけでは難しい専門的な学びを地域の方の支援で実現しました。この事例は、学校が持つ資源だけでは補えない学びを、地域の人々の力によって実現した好例です。

13地区コミュニティ防災研修（9月14日）

第13地区コミュニティにおいて防災研修が実施されました。当日は、ボランティア団体のオープンジャパンの方が石川県能登半島の現状について語ってくれ、子どもたちは真剣な表情で被災地の状況に耳を傾けていました。また、消防団員の方々による活動報告から、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」の意識を改めて考えました。最後に、水海小未来プロジェクトを中心とした地域と学校が協力し、子どもたちが包装したポリ袋で炊くお米が配られました。今回の研修は、防災への意識を高めるだけでなく、地域と学校の強い結びつきを感じる素晴らしい機会となりました。



能登の状況説明



消防団報告



お米配布



放水体験